

受検番号		氏名
------	--	----

## 高等学校数学解答用紙 (解答例)

その3

[4]

(1) [証明]

$$\bigcap_{k=1}^n A_k \text{ の任意の点 } x \text{ をとると, } x \in A_k \quad (k=1, 2, \dots, n)$$

各  $A_k$  は開集合なので、定義から  $U(x, \varepsilon_k) \subset A_k$  満たす正数  $\varepsilon_k$  が存在する。

ここで、 $\varepsilon < \min\{\varepsilon_1, \varepsilon_2, \dots, \varepsilon_n\}$  を満たす正数  $\varepsilon$  をとると、 $U(x, \varepsilon) \subset U(x, \varepsilon_k) \subset A_k \quad (k=1, 2, \dots, n)$  である。

$$\text{したがって, } U(x, \varepsilon) \subset \bigcap_{k=1}^n A_k \text{ となり, } \bigcap_{k=1}^n A_k \text{ に含まれる。}$$

れる  $x$  の  $\varepsilon$  開球が存在するので、 $\bigcap_{k=1}^n A_k$  は開集合である。

(2) [説明]

$$X = \mathbb{R}, d(x, y) = |x - y| \quad (x, y \in \mathbb{R}) \text{ とする。}$$

このとき、 $A_n$  を開区間  $(-\frac{1}{n}, \frac{1}{n})$  とすると、 $A_n$  は開集合である。

しかし、 $\bigcap_{k=1}^{\infty} A_k = \{0\}$  となり、 $U(0, \varepsilon) \subset \{0\}$  となる  $\varepsilon$  がとれないので、 $\{0\}$  は開集合ではない。

(3) [証明]

$\bigcap_{k=1}^{\infty} F_k = F$  とおく。 $F$  の補集合  $F^c$  が開集合であることを示す。

$F^c$  の任意の点  $x$  について、 $x \notin F$  であるから、 $x \notin F_n$  となる  $n$  が存在する。

このとき、 $x \in F_n^c$  であり、 $F_n^c$  は開集合であるので、 $U(x, \varepsilon) \subset F_n^c$  を満たす  $x$  の  $\varepsilon$  開球  $U(x, \varepsilon)$  が存在する。この  $U(x, \varepsilon)$  の各点は  $F_n$  に属さないことから、 $U(x, \varepsilon)$  の各点は  $F$  に属さず、 $U(x, \varepsilon) \subset F^c$  を満たす。

したがって、 $F^c$  の任意の点  $x$  に対して、 $U(x, \varepsilon) \subset F^c$  を満たす  $x$  の  $\varepsilon$  開球  $U(x, \varepsilon)$  が存在するので、 $F^c$  は開集合である。

$$F = \bigcap_{k=1}^{\infty} F_k \text{ は閉集合である。}$$

[5]

(1) [証明]

求める平面の上にある点を  $P(x, y, z)$  とすると、 $\vec{OP} = \alpha \vec{OA} + \beta \vec{OB}$  を満たす実数  $\alpha, \beta$  が存在する。

このとき、連立方程式

$$\begin{cases} x = \alpha x_1 + \beta x_2 \\ y = \alpha y_1 + \beta y_2 \\ z = \alpha z_1 + \beta z_2 \end{cases} \text{ すなわち } \begin{pmatrix} x & x_1 & x_2 \\ y & y_1 & y_2 \\ z & z_1 & z_2 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 \\ -\alpha \\ -\beta \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}$$

が成り立つ。

$$\text{ここで, } \begin{pmatrix} 1 \\ -\alpha \\ -\beta \end{pmatrix} \neq \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix} \text{ より, } \begin{vmatrix} x & x_1 & x_2 \\ y & y_1 & y_2 \\ z & z_1 & z_2 \end{vmatrix} = 0 \text{ を満たす。}$$

$$\text{逆に, } \begin{vmatrix} x & x_1 & x_2 \\ y & y_1 & y_2 \\ z & z_1 & z_2 \end{vmatrix} = 0 \text{ ならば, 3つのベクトル } \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} x_1 \\ y_1 \\ z_1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} x_2 \\ y_2 \\ z_2 \end{pmatrix}$$

は一次従属であり、 $\vec{OA}$  と  $\vec{OB}$  は一次独立であるから、 $\vec{OP}$  は  $\vec{OA}$  と  $\vec{OB}$  の線形結合で表される。よって、点  $P$  は  $\vec{OA}$  と  $\vec{OB}$  で決定される平面上にある。

(2) [求め方]

$$\begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix} = -2 \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 2 \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} 3 \\ 4 \\ 4 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix} = \frac{3}{2} \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 2 \end{pmatrix} - \frac{1}{2} \begin{pmatrix} 3 \\ 4 \\ 4 \end{pmatrix}$$

と表せる。 $f$  は線形写像なので

$$f \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix} = -2f \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 2 \end{pmatrix} + f \begin{pmatrix} 3 \\ 4 \\ 4 \end{pmatrix} = -2 \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 2 \\ 2 \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} 2 \\ 1 \\ 1 \\ 4 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 2 \\ -1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}$$

$$f \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix} = \frac{3}{2}f \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 2 \end{pmatrix} - \frac{1}{2}f \begin{pmatrix} 3 \\ 4 \\ 4 \end{pmatrix} = \frac{3}{2} \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 2 \\ 2 \end{pmatrix} - \frac{1}{2} \begin{pmatrix} 2 \\ 1 \\ 1 \\ 4 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} -1 \\ 1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}$$

答  $f \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 2 \\ -1 \\ 0 \end{pmatrix}, f \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} -1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}$

(3) [求め方]

$\mathbb{R}^2$  上の任意の点は  $\begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} = x \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \end{pmatrix} + y \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \end{pmatrix}$  と表せる。

$$(2) \text{ より, } f \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} = xf \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \end{pmatrix} + yf \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \end{pmatrix} = x \begin{pmatrix} 2 \\ -1 \end{pmatrix} + y \begin{pmatrix} -1 \\ 1 \end{pmatrix}$$

であり、 $x, y$  を実数全体で動かすと、 $\mathbb{R}^2$  全体は一次独立な

2つのベクトル  $\begin{pmatrix} 2 \\ -1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} -1 \\ 1 \end{pmatrix}$  で決定される平面に移される。

その平面の方程式は(1)より、

$$\begin{vmatrix} x & 2 & -1 \\ y & -1 & 1 \\ z & 0 & 1 \end{vmatrix} = 0 \text{ すなわち, } x + 2y - z = 0 \text{ である。}$$

答 平面  $x + 2y - z = 0$